

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0171500739		
法人名	医療法人社団 恵翔会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	〒041-1201 北斗市本町254-2 (電話) 0138-77-1112		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月10日	評価確定日	平成22年3月9日

【情報提供票より】(平成21年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年10月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算	10.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000～19,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	16名	男性 4名	女性 12名
要介護1	2名	要介護2	7名
要介護3	1名	要介護4	2名
要介護5	4名	要支援2	0名
年齢	平均 86.8歳	最低 78歳	最高 99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	増田クリニック・函館五稜郭病院・山内歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は大型スーパー、駐在所、消防署、市の総合支所がある町の中心に位置しているが、通りに面していないため静かな環境となっている。事業所内は木を多く使用しており、天井も高く開放感があり、天窓から射し込む陽は木目に反射して、優しく降りそそぎ、清潔で落ち着いた共有空間となっている。棟続きのクリニックからは毎日看護師が利用者の体調チェックに訪れ、健康管理体制を整備しており病気などの早期発見につなげている。また近くの駐在所とも連携を密にしており、生活の安全確保や徘徊時等の緊急事態に備えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で取り組みを期待したいこととされた栄養摂取については、連携施設の管理栄養士がチェックすることにより改善している。しかし、重度化や終末期、地域との付き合いについては徐々に進展しているが改善には至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットで自己評価の項目ごとに話し合い、課題や改善点を表出し、検討を重ねて作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年4回開催しており、事業所から日々の暮らしぶりや行事、自己評価の報告などを行っている。また、医師や行政の職員が家族のために講師となりインフルエンザ、老人疑似体験、介護保険制度など、家族が知りたい事をテーマにした双方向的な会議を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者1人に対し、1～2名の担当職員を配置して、日々の暮らしぶりを担当職員が中心になって家族に報告している。また、家族の来訪時や電話で気軽に話ができる様な雰囲気づくりに努め、表出された意見や要望は全職員で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	七夕行事で地域の子供たちが事業所を訪問したことがきっかけとなり、徐々に来訪者が増えている。散歩時には地域住民に気軽に声をかけて花畑を見せてもらうなど努力はしているが、地域活動に参加する等、積極的な交流を図るまでには至っていない。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	思いやりを持って一人ひとりの人生の継続、個人の意思を尊重した家庭的環境のもと、人と人のふれあいを大切に地域で自分らしく安心した暮らしの提供を柱においた、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目の届くところに理念を掲示したり、全体ミーティングで確認し合い共有して実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	七夕行事で地域の子供たちが事業所を訪問したことがきっかけとなり、徐々に来訪者が増えているが、積極的に地域交流するまでには至っていない。管理者と職員は地域との付き合い方を模索している。	○	今後は事業所の理念を掘り下げて、地域との交流を積極的に行うことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組むことで、日々のケアの気付きや職員の意識合わせの機会となっている。また、表出された課題や反省点はチームで検討し改善に取り組んでいる。評価の意義を理解し実践につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は年4回開催している。事業所の活動、行事、評価などの報告や家族の要望、インフルエンザなど、その時々家族が知りたい事をテーマとして気軽に話し合える会議になるよう工夫している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険グループの担当者と密に連携を取り合い、サービスの質の向上につなげるよう努力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「めぐみ便り」を発行し、行事や外出時の写真を添えたり、出納帳のコピーや領収書を同封して金銭管理の報告をしている。また、職員の異動時も紹介記事を掲載している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話などで日常的に気軽に意見、苦情、相談を言いやすいよう配慮し、表出された意見などは運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の相談に応じたり、常に体調に気配りをするなど職員間の絆が深まるよう配慮し、離職を必要最小限に抑える努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて多くの職員が外部研修に受講できる様に勤務調整をするなど配慮している。また、資格手当などの制度もあり、資格を重視した働きながらのトレーニングに力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会に加盟し、勉強会や研修会には積極的に参加し報告会も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人が見学し、事業所からの説明を受けた後、職員が家庭訪問を繰り返しながら徐々に馴染みの関係を築き、暫定プランを作成して利用開始につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に笑顔でゆっくり、ゆったり、穏やかに利用者に関われる様に心がけている。また、利用者を人生の先輩として尊敬し、体験や知識などを学ぶ場面も多く、そのような場面作りに工夫や配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人のこだわりや意向の把握に努め、得た情報は職員で共有している。意思疎通が困難な利用者は表情や動作から思いを把握する努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時は、1ヶ月後にケアプランを作成している。その後は担当者がアセスメントし、ユニット会議で全職員で検討して、ケアプランをまとめて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始後1ヶ月でモニタリングし、その後6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っているが、家族の意向や状況の変化により、随時見直しをして、きめ細かに作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を取り入れ、外出、買物、受診支援、帰宅、理・美容院の送迎、墓参り、遠方家族の宿泊支援など、臨機応変に柔軟な支援をしている		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じ2ヶ月に1度、かかりつけ医に定期的に受診するなど、適切な受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員、看護師、家族間では重度化や終末期について話し合いを重ねているが、事業所としての看取り介護の指針作成や医師との連携には至っていない。	○	今後は、医師も参加し、重度化や終末期のあり方について継続した話し合いを重ね、方針の共有に努めることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のペースを大切にすることを基本とし、穏やかに優しく対応してプライバシーを損ねないように配慮している。また、個人情報の記録などは事務所内の一定の場所に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一人ひとりのペースを大切に、希望を聞きながら本人の体調に配慮して、その人らしい生活が送れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状態や能力に合わせて、調理の下準備や食器ふきなどを職員と共に行い、食事も職員と同じ物を一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯は決めないで、利用者の希望に沿って臨機応変に対応し、楽しく入浴できるよう支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の能力、生活歴、好みを把握して、時代劇や歌番組などを観賞したり、近くの温泉に行くなど、職員は利用者の希望に臨機応変に対応している。また、職員から仕事を依頼した時は感謝の気持ちを伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態や天候に合わせて買物や散歩、ドライブなど外出する機会を多く設けている。また、中庭のウッドデッキに出て外気浴をするなど様々な工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は施錠せず自由な暮らしを支援しているが、夜間は防犯のため施錠している。居室は利用者が鍵をかけることもあるが、職員が適切に対応して弊害はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練や避難訓練は消防署の協力を得て昼間と夜間を想定して行っている。また、職員間で災害時緊急対応などの話し合いを行っているが、地域住民の参加や協力を得るには至っていない。	○	火災自動通報装置や緊急時マニュアルを作成するなど災害対策はしているが、今後は地域の方々の協力を得るよう働きかけることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や栄養バランスなどを連携施設の管理栄養士がチェックしている。水分摂取量はチェック表に記録し、全職員で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から暖かな陽が降りそそぐフローアーには家庭的なインテリアが配置し、玄関ホールには職員手作りの雛人形を飾って季節感を出している。不快な臭いや音もなく、採光もレースのカーテンなどを利用して調節し、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や日用品、家族の写真などを持ち込み、利用者が居心地よく暮らせるように工夫している。		

※  は、重点項目。